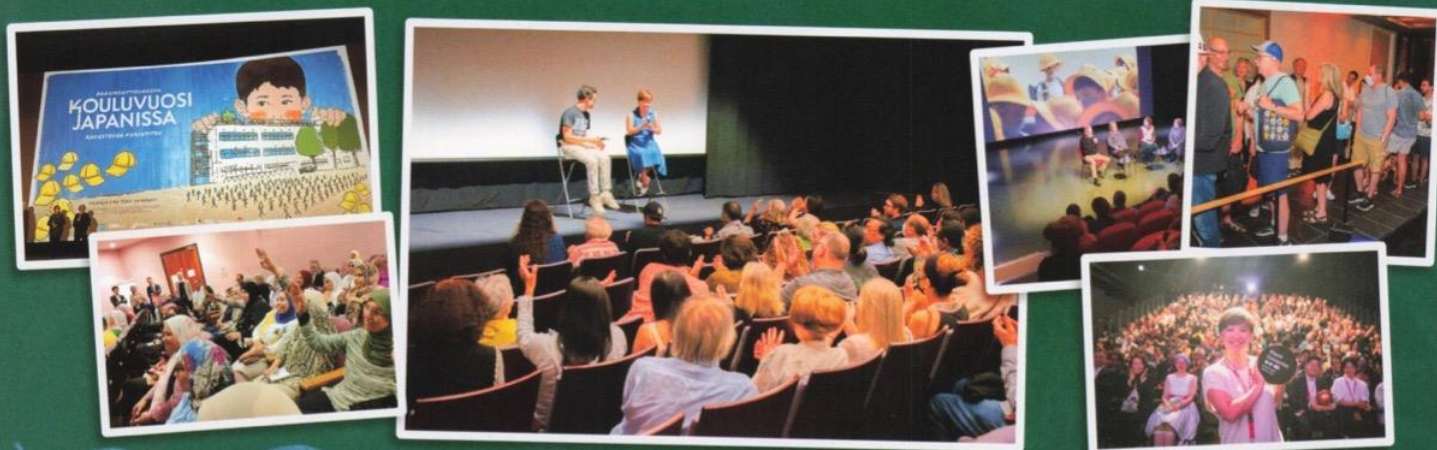


観客の思考を大きくうねらせる! 続々と世界各国で大反響!! 「THE MAKING OF A JAPANESE」旋風が止まらない



フィンランド



「コミュニティづくりの教科書。
自分たちの教育を見直す場になった」

1館から20館の拡大公開で4ヶ月のロングラン大ヒット!

「アメリカでは子供たちは掃除をしない。
これは『自分たちのことを自分たちでやる』
ということを学ぶための最高の見本だ」

アメリカ



ニューヨークタイムズ紙に
本作と山崎監督のキャリアが紹介された

ドイツ



「日本人は小さい頃から周りとの意識が
自然と身についている。
だから地震がきても慌てず、
コロナ中もうまく対応できたんだろう」

「日本の子どもたちの責任感がすごい。
小さな子どもを信頼する先生たちもすごい」

ギリシャ



「この映画がエジプト全ての学校で
上映されることを願っている」

エジプト



「人々の表情、動作の姿勢が
すべて生き生きとしている。個性が生きている」

教育チャンネルEBSで放送され、50万人以上が視聴!

掃除・日直制度・学級会などの
日本式教育「TOKKATSU」の導入が
2万以上の公立小学校で進んでいる

「6歳児は世界のどこでも同じようだけれど、
12歳になる頃には、日本の子どもは“日本人”になっている」

主人公は学校そのもの。カメラは入学したての1年生と卒業を控えた6年生に焦点を絞り、彼らの学校生活を追う。春夏秋冬、そしてまた春へ。イギリス人の父と日本人の母を持つ山崎エマ監督は、日本の公立小学校～インターナショナルの中高一貫校を卒業し、アメリカの大学へと進学。そこで、自分の強みは、日本で過ごした小学校時代に学んだ“規律と責任”に由来していることに気づく。公立小学校で150日、のべ4,000時間という前代未聞の長期取材を実施した本作からは、〈今、日本人に伝えたい、大事なこと〉が見えてくる。学校での教室の掃除や給食の配膳などを子どもたち自身が行う国は少なく、日本式教育「TOKKATSU」は、海外で注目を集めている。日本人である私たちが当たり前に行っていることは、海外から見ると驚きでいっぱい! 小学校を知ることは、未来の日本を考えることだと作品は投げかける。



監督・編集：山崎エマ (『モンキービジネス おさるのジョージ著者の大冒険』『甲子園：フィールド・オブ・ドリームス』)

プロデューサー：エリック・ニアリ 撮影監督：加倉井和希 録音：岩間翼 エグゼクティブ・プロデューサー：安田慎 杉江亮彦 橋本瑞恵 コープロデューサー：ウーティ・ロウス リュック・マルタンニグセ 金川雄策
音楽：バイビー・タカラ ミキサー：アンドリュー・トレイシー 共同編集：井手麻里子 鳥屋みずき 特別撮影：ジョン・ドニカ カラーリスト：佐藤文郎 製作・制作：シネリック・クリエイティブ 国際共同製作：NHK
共同制作：Pystymetsä Point du Jour YLE France Télévisions 協力：世田谷区 世田谷区教育委員会 協力：純牛倶楽部 配給：ハビネットファントム・スタジオ 宣伝：ミラクルヴォイス 宣伝協力：芽 inc.
2023年 | 日本・アメリカ・フィンランド・フランス | カラー | 99分 | 5.1ch © Cineric Creative / NHK / Pystymetsä / Point du Jour

shogakko-film.com

映画会の情報や、私たちの事業活動の様子をInstagramで発信しています!

特定非営利活動法人 こどもサポート鈴鹿 Instagram



♪フォローお願いします♪